西昌学院における彝族学生への日本語教育
その現状と課題・対策*

曲　木　威　古

Abstract

In this paper, I will make a brief repot about the current status of Japanese language education at the Yi Language and Culture Institute of Xichang University in the Autonomous Region of Minorities in Sichuan Province, China. It includes the establishment and development of Japanese language courses at our Institute, degree examinations, specific teaching methods used by teachers, and learning methods used by students. In particular, I will analyze the background of Japanese language education at our institute, the problems and difficulties faced by our academic organization, the importance of Japanese language education to the institute, the experience and methods of Japanese language education of our institute's teachers, the use of Japanese by our students, and the interaction with Japanese students. In order to examine the logical relationship between Japanese language education and Yi language education, this report summarizes the logical relationship between the two languages education and the mutual teaching-learning relationship in an inductive manner.

1　彝族自治州および西昌学院の概況

西昌学院は(1)、中国最大の彝族自治体である四川省涼山彝族自治州にある(2)。「涼山」というのは地理的な概念ではあるが、同時に行政上の区画を意味する概念でもある。中国の国家民族事務委員会のホームページが引用する涼山彝族自治州政府の情報によれば(3)、涼山彝族自治州は、四川省の南西部に位置し、北は大渡河、南は金沙江に挟まれた地域で、東は雲南省肇東市および四川省宜賓市・楽山市に、西はカンゼ・チベット族自治州に隣接する。面積は約 6 万平方キロメートル。西昌が州の中心地であり、その標高は 1500 メートルになる。

---

* 本研究は中国国家留学基金（留金选［2021］55 号、国家公派访问学者学号 202108510074）の資金援助を受けた研究成果の一部である。

（1）　西昌学院については、Science Portal China の HP（https://spc.jst.go.jp/education/univ/univ_577.html）、および大学公式 HP（https://www.xcc.edu.cn/xceng/376294/index.html）を参照されたい（2022 年 9 月 27 日最終確認）。

（2）　中国の少数民族としての彝族については、簡潔には田畑久夫ほか（2001）を参照されたい。その民俗については、佐野賢治（1996、1997）などが詳しい。

（3）　https://www.neac.gov.cn/seac/ztzl/201207/1067791.shtml（2022 年 9 月 27 日最終確認）

中央政府の第7回国勢調査によると、2020年11月1日時点の涼山彝族自治州の居住人口は485万8359人である[(4)]。2022年の涼山彝族自治州政府ホームページによると、彝族の人口は288万7500人で、県全体の人口の54.16％を占めている[(5)]。 そのため、国内最大の彝族集住地域として知られている。中国統計年鑑2021によると、彝族の人口は983万327人で、主に雲南省、四川省、貴州省、広西チワン族自治区の高原および海岸と丘陵地帯の間に分布し、楚雄、紅河、涼山、畢節、六盤水、安順などが中心的な居住地域である[(6)]。そうした地域ではそれぞれ独自の彝語と彝文字を使っている。彝族の言語はシナチベット語族チベット・ミャンマー語派彝語語群に属して、北部、東部、南部、東北部、西部、中部という6方言があるが、さらに5つの下位方言と25の土語がある[(7)]。現在、四川省の涼山で使われている彝文字は1982年に標準化され、国務院の認可を受けたものだが、それ以外の場所では標準化の影響を受けず、昔からの彝文字が使われ続けている[(8)]。

西昌学院の歴史は古く[(9)]、以下、西昌学院公式HPの「学校概況」の記述に基づいて概説すると[(10)]、1939年に北洋工学院内から新たに創設された国立西康技芸専科学校がその始まりとなる。そこには李書天、柯召、魏寿昆、曾炯、劉之祥らなどの名教授が在籍し、教育の振興のために「農工ヲ振ヒ、実験ヲ重ンズ」を理念として、農林、牧畜、土木、冶金、機械、医学などの専門課程を設立した。 実学教育の歴史が長く、実践的な人材の育成が特徴である。国家科学技術進歩大賞を受賞した陳明義、国家発明賞を受賞した張嘉恵など、優れた人材を数多く輩出している。その後、幾度かの変更を経て、2003年に西昌農専、西昌師専、涼山大学、涼山教育学院の合併が教育部から認可され、西昌学院が設立された。

西昌学院彝言語文化学院については、当学院のHPの「歴史沿革」の記述によれば[(11)]、その前身は西昌師範高等専科学校彝文系で、1989年7月、四川省教育委員会によって西昌師範高等専科学校彝文系の設立が認可され、同年秋に彝語文専攻の学生30人が入学した。2004年に西昌学院彝文系として統合され、少数民族の言語文化を専攻する専科課程という基礎の上に少数民族の言語文化を専攻する本科学部レベルの学生が入学した[(12)]。2008年以降、行政管理、数学と応用数

（4） http://www.stats.gov.cn/tjsj/zxfb/202105/t20210510_1817176.html（2022年9月27日最終確認）

（5） http://www.lsz.gov.cn/wcls/lsgk/xzqhyrk/202202/t20220228_2167326.html（2022年9月27日最終確認）

（6） http://www.stats.gov.cn/tjsj/ndsj/2021/indexch.htm（2022年9月27日最終確認）

（7） 彝語の言語的な記述およびその方言については、西田龍夫（1999）、Qiu（2013）を参照のこと。

（8） 彝文字および彝語については、福田和展（2011）を参照のこと。

（9） 西昌学院の公式HP内の「History」を参照のこと。https://www.xcc.edu.cn/xceng/376299/376303/index.html（2022年9月27日最終確認）

（10） https://www.xcc.edu.cn/xcxyphone/xxgk2/xqzl30/index.shtml（2022年9月27日最終確認）

（11） https://www.xcc.edu.cn/yyywhxy/365594/365599/index.html（2022年9月27日最終確認）

（12） 中国の教育課程としての「専科」は、高等学校卒業生を受け入れる3年制の高等教育課程であり、4年制の「大学本科」とは区別される。詳細は、文部科学省による「中国の学校系統図」を参照のこと（https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/015/siryo/attach/1374966.htm　2022年9月

学、水利水電、動物医学、農学、財政管理など17の専門分野が増設された。

これらの新しい専攻は、実際には中国少数民族言語文化専攻の延長線上にあったが、入学試験には彝語が試験科目として加えられており、その試験における一定程度以上の彝語の成績が必要とされた(13)。

2009年12月に学部の再編が行われ(14)、従来の彝文系が正式に彝言語文化学院に改称された。1989年以来、33年間にわたって学部学生と大学院生が在籍し、当初の年間数十名から、現在では400名近くの学生が在籍するまでに成長した。現在は、文学、科学、経営、農学、工学、教育など6つの分野を持つまでに発展し、合計1528人の学生が在籍している。その多くは、四川省の民族地域に居住し基本的な母語能力を持つ彝族の学生が中心で、卒業後は、主に彝族地域での業務に従事している。

2　彝言語文化学院の入学者および学生

涼山自治州の彝族学生のための中等教育は、1類タイプと2類タイプと呼ばれるものに分けられる。1類タイプは全科目の授業を彝語によって行い、これに中国語の授業を1科目加えるものであり、2類タイプは中国の他地域の普通の高校と同じように中国語による授業を行い、彝語の授業を1科目加えるものである(15)。1類タイプの主な教育学校には、昭覚県民族中等教育学校、西昌市民族中等教育学校、喜徳県民族中等教育学校、喜徳県瓦爾学校、塩源県民族中等教育学校などがある(16)。

1類タイプで彝語による学習をした卒業生は、大学入試では使用言語として彝語と中国語のどちらかを選択できる。2類タイプの学生は、試験科目として彝語を追加で受験し、そのスコアが、彝語に関連する専攻を志望する場合に、合計得点の一部に算入される(17)。

以下に、近年の西昌学院彝言語文化学院の入学者選抜の成績を示す(18)。

27日最終確認)。

(13)　本学院の元学院長からの聞き取りによる。

(14)　以下、やはり本学院の公式HPの「学院簡介」による。https://www.xcc.edu.cn/yyywhxy/365594/365590/index.html を参照のこと（2022年9月27日最終確認)。

(15)　彝族自治区における初等中等教育の言語教育については、吉川龍生ほか（2014)、Liu Chenyu et al.（2014)、浅山（2018）などを参照のこと

(16)　昭覚県民族中等教育学校については、https://www.cd5it.com/lszschool/zjmzzx/ を参照のこと（20022年9月29日最終確認)。西昌市民族中等教育学校については、https://baike.baidu.com/item/ を参照のこと（20022年9月29日最終確認)。喜徳県民族中等教育学校については、http://liangshan07232.11467.com/about.asp を参照のこと（20022年9月29日最終確認)。喜徳県瓦爾学校については、涼山州教育局の公示文書「涼教　2016年129号」による。塩源県民族中等教育学校については「塩源県民族中学校一類摸式工作状況滙報」（内部資料）による。

(17)　四川省教育庁の『四川教函 』2017年242号による

(18)　https://www.xcc.edu.cn/yyywhxy/365605/365611/645675/index.html（2022年9月27日最終確認）

表 1　2018 ～2021 年度の彝族言語文化学院の入試成績

年度	カテゴリー	レベル	合格最低点	彝語スコア
2021	2 類タイプ文科	本科	400	30
	2 類タイプ理科	本科	373	28
	1 類タイプ文科	専科	335	
	1 類タイプ理科	専科	282	
2020	2 類タイプ文科	本科	377	30
	2 類タイプ理科	本科	366	26
	1 類タイプ文科	専科	303	
	1 類タイプ理科	専科	249	
2019	2 類タイプ文科	本科	412	20
	2 類タイプ理科	本科	399	19
	1 類タイプ文科	専科	304	
	1 類タイプ理科	専科	227	
2018	2 類タイプ文科	本科	431	20
	2 類タイプ理科	本科	399	19
	1 類タイプ文科	専科	344	
	1 類タイプ理科	専科	265	

表からわかるように、1 類タイプの学生の得点は一般にかなり低く、2 類タイプの学生ほど高くない。よって 1 類タイプの学生は専科学生として入学することになる。2 類タイプの学生は、1 類の学生よりは得点が高く、その他の一般の学生よりは低い得点ではあるものの、学部学生として入学することが可能である。

西昌学院彝語文化学院を受験する場合、1 類タイプの受験者は彝語試験の点数を加算するのに対し、2 類タイプの受験者は各文系科目の点数に中国語と彝語の点数の合計を 2 で割った点数を加算して、最終得点とすることに注意しなければならない。これは、四川省教育庁による大学入試の合計点数に彝語試験の点数を加えるという政策要件に従ったものである[19]。

彝言語文化学院に入学すると、彝語によって学習してきた学生も、彝語と関連する科目はあるものの、カリキュラムは主に中国語を中心とし、彝語を補助として行われるため、しばしば教育課程に対する非適応を起こしがちとなる。中国語の基礎が不完全であるため、彝語の基礎が良好でも、学習指導の不整合によって、勉強がおろそかになったり、所期の目標を達成できなかったりすることにつながる[20]。

一方、2 類タイプの学生は、入学後に彝語の授業が設定されてはいるものの、中国語の基礎力

(19)　同注(17)

(20)　「西昌学院 2021 級人才培養方案」(内部資料) による。

が良好なのに対し彝語を比較的苦手とするため、彝語の学習を怠ることが多く、極めて少数の学生のみが彝語の学習に成功するに過ぎない[21]。

3　日本語教育の現状

四川省の彝族地域では、西昌学院のほか、当初は涼山自治州の民族中等学校でも日本語教育が行われていたが、数年で打ち切られた。これに対し、西昌学院の彝言語文化学院では日本語教育が継続的に行われている。

もともと西昌学院では、教養課程での「大学英語」の学位試験の合格率が低く[22]、学生の卒業に影響があったため、この問題に対処する方策をさまざまに講じなければならなかった。全国大学英語考試 4 級の受験を奨励するとともに[23]、大学独自の英語 4 級に合格すれば、学位外国語試験にも合格したものとみなし、卒業を認めることとした[24]。しかし、それでも学位取得のための外国語試験の合格率が低いという問題は解決されず、毎年大学独自の 4 級試験に合格できない学生が多い[25]。英語を苦手とする学生の場合、入学以後の英語の進級合格率が一定して低くなっている。こうした状況下での学位取得のための外国語試験合格の問題を解決するために、他の外国語を学習させるという選択肢が検討され、大学入学統一試験で英語が 90 点台で入学する学生は全員、履修外国語を日本語など他の言語に変更することが義務づけられた[26]。

筆者は 2016 年に西昌学院彝言語文化学院に奉職し、2017 年から教養教育科目である「大学日本語」を担当した。以下、2018 年以降の筆者の日本語教育を例として本学での日本語教育の状況を説明する。筆者が 2018 年以降の 5 年間に担当した日本語教育は以下の表の通りである。

---

(21)　たとえば、筆者の経験では、2021 年に卒業した 17 年度入学学生の中国少数民族語言文学専門クラス 86 名のうち彝語を使用する仕事に就くことができるレベルにあったのは 1 人だけである。

(22)　中国の大学では、本科以上の課程の終了後、さらに学業レベルが一定の水準に達している場合に学位が授与される。詳細は独立行政法人大学評価・学位授与機構「中国の高等教育における質保証システムの概要（https、//www.niad.ac.jp/consolidation/international/info/china.html）」（2022 年 9 月 27 日最終確認）を参照されたい。

(23)　「CET-4」と略称される「College English Test Band 4」のこと。国家教育部の高等教育課が行う全国的な英語テスト。詳細は教育部教育考試院の HP（https://cet.neea.edu.cn/）を参照されたい（2022 年 9 月 27 日最終確認）。

(24)　西昌学院教務処学生処編『西昌学院学生工作手冊』p. 67

(25)　たとえば、20 年度入学学生の中国少数民族語言文学専門 1 クラス 51 人のうち、2021 年に英語 4 級テストを受けて合格した学生は 14 人で、27％であるが、それでも高いレベルにある。

(26)　現在は、他の外国語を選ぶように指導されるのは 60 点以下に引き下げられた。

表 2　2018-2022 期間に筆者が担当した日本語授業一覧

年度 / 学期	科目名	履修者数	授業時間[27]	単位数
18-19 前期	大学日本語 I	約 80	48	3
18-19 後期	大学日本語 II	約 80	48	3
	日本語入門	約 85	48	3
19-20 前期	大学日本語 III	約 50	8	3
	職業日本語	約 40	16	1
19-20 後期	異文化コミュニケーション入門	約 50	18	1
	職業日本語	約 30	32	2
20-21 前期	大学日本語 I	約 60	48	2.5
	大学日本語 I	約 40	40	2
20-21 後期	大学日本語Ⅱ	約 60	48	2.5
	大学日本語Ⅱ	約 40	40	2
21-22 前期	大学日本語Ⅲ	約 60	24	1
	大学日本語 I	約 30	24	1
21-22 後期	職業日本語	約 60	16	1
	大学日本語Ⅱ	約 30	48	2

学生は、専科であれば 3 学期分の課程を履修し、修了試験を受験すれば学習終了とみなされ、試験に合格する必要はない。一方本科の方は、4 学期分の課程を履修し、修了試験を受験するだけでなく、最終的に全国大学日本語考試 4 級に合格する必要があり、そこで始めて学位を取得し卒業することができる。不合格の場合は卒業を遅らせることになる[28]。

しかし、日本語の授業は時間割上の配置が不合理で、授業はすべて土曜日と日曜日に組まれている。これは学生の学習意欲を減退させ学習効果に影響しかねない[29]。週末は誰もが休んでいるので、学生は授業に参加する意欲が削がれ、授業に十分な注意を払わないからである。

使用教材は以下の通りである。

「大学日本語」科目　『新版 中日交流標準日本語初級』[30]

唐磊・張国強・張敏・劉粉麗・李家祥（2005）人民教育出版社

(27)　西昌学院での 1 授業時間（1 コマ）は 40 分である。

(28)　西昌学院教務処学生処編『西昌学院学生工作手冊』p. 67。英語は、学校 4 級なら 300 点で合格であるが、本来は国家 4 級の 420 点が必要とされている。

(29)　授業後の授業評価アンケートによれば、2021 年度本科合同クラス学生 27 人のうち、週末授業に不同意の学生が 23 人、同意が 4 人であった。

(30)　1988 年に出版された「中日交流標準日本語」の改訂版。日本での入手はアスク出版による。https://www.ask-books.com/978-4-87217-989-7-2/　（2022 年 9 月 27 日最終確認）

「職業日本語」科目　『新実用職業日語総合教程』[31]

張厚泉・水岡実乃里（2015）華東師範大学出版社

「異文化コミュニケーション入門」科目　『異文化コミュニケーション入門』[32]

池田理知子・E.M. クレーマー（2000）有斐閣アルマ

4　課題

西昌学院彝族言語文化学院では、長年にわたり「大学日本語」という科目が開講されているが、日本語学習効果の全体的な状況は芳しくない[33]。以下その問題を、第一に教務管理の側面、第二に教師の指導の側面、第三に学生の学習の側面から分析、報告する。

4.1　教務管理

西昌学院彝族言語文化学院における彝族学生の日本語科目の履修状況は、以下の通りである。

上掲した筆者自身が担当する科目からも計算されるように、本科の 4 年制学部学生は、日本語科目を 2 年 4 学期にわたって 162 授業時間、10 単位を履修することになっていたが、2022 年の教育計画規定では、160 時間、8.5 単位に短縮された[34]。一方専科の学生は 1 年半 3 学期の日本語科目を履修し、112 時間、7 単位を取得する。学生数は本科、専科ともに 40 名前後で推移している。

2022 年の中国少数民族言語文学の本科課程（彝語 2 類タイプ）の教育計画規定では、総時間数の 6%、総単位数の 5%が日本語科目である。あるいは、小学校国語教員養成を専攻する場合（彝語 1 類タイプ）、2021 年に新たに改訂された教育計画規定では、日本語の授業は総時間数の 5%、総単位数の 4%を占めている[35]。

授業時間数についていえば非常に少ない時間数で、中等教育からの第一外国語ではない言語の学習時間としては、百数十時間の授業時間だけでは十分な効果は期待できない[36]。これがまず問題となる。

授業時間が少ないということは、授業内容も十分な質を確保できないことを意味する。使用するテキストは上述した『新版 中日交流標準日本語初級』で、3 学期間で本科学生は 12 課まで、専科学生は 8 課まで学習し、その後、異文化コミュニケーションとビジネス日本語について学

(31)　華東師範大学出版部の HP 参照。https://ecnup.jd.com/（2022 年 9 月 27 日最終確認）

(32)　https://book.douban.com/subject/5315027/（2022 年 9 月 27 日最終確認）

(33)　18 年度入学の中国少数民族語言文学専攻の卒業学生で国家 4 級に合格した者はいなかった。なお学位試験としては、英語では国家 4 級は 420 点で合格だが大学独自の試験では 300 点（ただし内容は同一）、日本語の場合、国家 4 級なら 70 点で合格だが、内容も異なる大学独自の試験では 60 点で合格となる。

(34)　内部資料「西昌学院 2022 級人才培養方案（第三稿）」p. 280 による。

(35)　内部資料「西昌学院 2022 級人才培養方案（第三稿）」p. 496 による。

(36)　内部資料「西昌学院 2022 級本科人才培養方案修訂指導意見」による。

ぶ。教科書自体は良いものであるが、カリキュラムの都合上これだけの時間しか設定できないという制限があり、結果的に授業であつかう内容も制約される。

英語教育はこれと異なる。大学入学まで6年間も学んできた英語の場合、大学入学後の英語科目の規定時間である100余時間の学習はいわば再教育に相当するものであり、求められる結果に到達することが可能である[37]。しかし、日本語の場合は、ゼロから学習を開始するので、これだけの時間で学ぶのは非常に難しい。

現在の授業では教員による説明も不十分になりがちであるが、しかしそれを増やしても学生は消化しきれない。使用教科書の『新版 中日交流標準日本語初級』、『新実用職業日語総合教程』、『跨文化交際入門（日語）』自体の情報量は十分に豊富であるが[38]、講義内容まで大学によって指示されているため[39]、講義はこれらの教科書の一部分を表面上でなぞっただけになりがちである。大学が計画するところでは、『標準日本語』は1～12課、『職業日語』は1～4課、『跨文化交際日語』は1～2課を終了することになっているが[40]、実際にはすべてをカバーすることはできない。

前述したように、授業は週末の午前中に配置されているので、学習はどうしても場当たり的なものとなる。おそらくは中国の社会的な環境かと考えるが、全寮制の中国の大学では週末には自宅に帰りたがる学生が多く、またキャンパスが郊外にあって全寮制なので、やはり週末には買い物などに出かけたいと考える学生が多いからである。また、教室には日本語を教えるための教具や設備がなく、日本語でコミュニケーション練習をするための場所や時間も設置されていない。日本語教育の成果は、主に期末試験や本科学生の学位試験によって判断されるしかない。他の学校との比較資料がないので本学学生の学習結果の正確な相対的位置を推定することは難しいが、教員としての経験から見て、良好な結果を修めているとは言い難いのではないかと危惧する。

4.2　教師

彝族言語文化学部の日本語教師は筆者1名と少なく、専門とするのは日本語教育ではなく民族学である。日本語教育は本学院の南キャンパスで行われるので、たまたま南キャンパスに在籍している筆者が、教員配置上で便利であるという理由で、この任務を引き受けている。つまり日本語教育の専門家ではなく、民族学の教員が代替しているということになる。専門でない教員の授業を受けることで、学生は授業に集中しにくく、おざなりな態度になりがちである。こうした教

(37)　内部資料「西昌学院2022級人才培培養方案（第三稿）」の「西昌学院2018-2019第一学期全校課表」による。

(38)　たとえばその目安としてページ数を見ると、『標準日語初級教程（上）』は296頁、『新実用職業日語教程（1）』は161頁、『跨文化交際日語会話』は180頁である。

(39)　本学の北キャンパスで日本語教育を担当する日本語教学研究室責任者から配布された「《大学日語Ⅱ》課程教学大綱、西昌学院課程教学進程計画」による。

(40)　注(39)と同様に配布された「《職業日語》《跨文化交際入門（日語）》課程教学大綱、西昌学院課程教学進程計画」による。

員配置には客観的な根拠がない[41]。

彝学院の日本語教育は、一般的に２クラスであって学生数が少ないので、一人の教師で授業を担当することが可能ではある。しかしすべての教学上の任務に一人で対応するということは難しい。なにより第一に、筆者が体系的な日本語教育の訓練を受けておらず、さらに独学で日本語を習得しているので、授業方法が多様性を欠いた単調なものとなりやすい。日本語の授業経験も十分にないので、どうしても一方的な講義という伝統的方式に頼って学生に説明することになる。

できるだけ関連する日本についての知識も享受することで生きた日本語となるように工夫してはいるが[42]、教員仲間と教え方について話し合ったり、経験を交換したりする場がなく、教授法などについて十分な理解の無いまま、一人で頭を抱えて授業を実施している状態である。教育のための研究活動はチームで行う必要がある。教師と学生による実践的活動だけでは、対面的な教育活動への反省でしかなく、専門的な研究活動とはならない。

指導方法は教師による講義が中心で、授業スケジュールも教科書の内容に基づいており、教員による工夫の余地はない。筆者自身の授業のこととなるが、通常の授業は、教師が常に話し、学生は常に聞くという、非常に伝統的でありきたりな手順によっており、たまに学生がテキストを朗読したり、練習問題をこなしたりするだけである。40 分の授業時間を、さまざまな内容で分割構成するものではない。学生の受容の程度によって時間を区切るのではなく、あくまでもテキストの内容によって時間配分が行われる。

授業における教育方法は主に講義方式で、学生による実践的な活動はわずかに簡単なものが伴うに過ぎない[43]。よって授業自体は単純なものとなりがちで、その教育効果は、主に期末試験と通常の教室での質疑応答や黒板への書き込みで検証されるしかなく、明確にならない。教材以外の設備は欠如しており、教材として使用できる図画などもなく、インターネットでダウンロードして使うこともできるが、基本的に有料であり使用できない[44]。ビデオによるスピーキング練習を見ることもできるが、学生は理解できるほどの基礎がなく、やはり使用しにくい。

専門的な知識や内容は常に進化し変化しており、語学教員としての専門的な知識のアップグレードは非常に必要であると思われるが、研修やトレーニングに参加する機会は確保されていない[45]。その結果、教授方法および教授内容ともにどうしても古くなりがちである。

---

(41)　たとえば本学院の北キャンパスの日本語教師は、日本語学科を卒業したという意味で専門と教育任務が適合している。

(42)　筆者が日本を訪問した際に気づいたさまざまな習慣の差などを話題として提供するなど。たとえば、うどんを食べる時に音を立てることが許容されるといった内容に対する学生の反応は高かった。

(43)　具体的にはテキスト各課末尾の練習問題や語彙や文の書き取り、あるいは黒板へのかな漢字書きなど練習などである。

(44)　たとえば「腾讯课堂:《大学日语》」のホームページ（https://ke.qq.com/course/577294?_bid=167#term_id=100675173）など。（2022 年 9 月 27 日最終確認）

(45)　たとえば国際交流基金の北京日本文化センターでは、「大学日本語教師教授法集中研修会」といったプログラムが存在する。https://www.jpfbj.cn/jp/sys/?p=4419　（2022 年 9 月 27 日最終確認）

4.3　学生

彝言語文化学院の学生は主に四川省彝族地域の出身で、全員彝族である。1類タイプで入学した学生だけでなく、2類タイプで入学した学生も彝語の追加試験を受けなければならない。学生の中国語の点数は、一般の受験生と比較して百点以上低く、1類タイプの学生は2類タイプの学生よりさらに百点以上低くなっている(46)。中国語のレベルという点で言えば、ともに基礎が出来ていないと評価されうる。

一方で日本語学習については、彝族の学生は、自ら生まれながらにその学習に大いなる興味を持っているのだと直感的に言うことが多い。学習の初期の段階では、すべての学生は自信と熱意に満ちている。しかし最初に興味を持ったときの熱意はその時だけで、しばらくするとしぼんでしまうことが多いように見受けられる。すべての学生がそうであるわけではないが、授業を理解し、興味と意欲を維持し、日本語で自分を表出でき、教師から見て肯定できるような学生は少数と見積もられる。

意欲が急落し、その場しのぎになる学生について言えば、その日本語への関心が何らかの根拠のある合理的なものではなく、表面的なものだったためであろうと推測される。学生の間では、日本語はあくまで副次的な教科であり、その重要性を低いと認識しているからである(47)。

これは、学習者の学習方法の問題と教師の丁寧な指導の欠如によるものである。学習方法の問題とは、学習スケジュールに無理があって計画性がないこと、平日は他の授業で忙しく効果的な時間利用ができないことなどを指す。学習者への聞き取り調査からは、彼らが日本語の授業前に予習をする習慣がなく、授業時になって初めて教師について読んだり学んだりするという実情がうかがえる(48)。

学習者の日本語学習の目的も明瞭ではなく、やや混乱しているように思われる。実際上の日本語学習の目的は、学位を取得するための修了試験としての日本語試験の合格にある(49)。またそれに加えて、日本語を選択して大学院の試験を受けることができることも学習の目的となる。これは比較的容易な問題のはずであるが、試験に対応するためにはやはりある程度自分でいろいろ勉強しなければならず、動機の維持は難しい。

---

(46)「西昌学院招生信息网」https://zszhpt.xcc.edu.cn/static/front/xcc/basic/html_web/lnfs.html（2022年9月27日最終確認）による。

(47)　たとえば、本学を卒業する学生の多数が目標とするのは公務員になることであるが、彝族地区の公務員試験には「日本語」科目はない。

(48)　学習不振者への指導時の聞き取り調査による。

(49)　西昌学院教務処、学生処編『西昌学院学生工作手冊』p. 67

5　対策

教務管理の面から考えると、大学における日本語教育の重要性は、主に以下のような側面に反映されるべきであると考える。

第一に、時間数を増やす必要がある。限られた教育時間の中で時間数を増やし、教師と学生の時間のニーズを満たす必要がある。第二に、教材の選択が合理的でかつ効果的である必要があり、分量は少なくとも体系的で完全な内容を持つものが選択されるべきである。現在の学習は教材の一部を終了できるだけであり、大学院の入学試験に対応するのはもちろんのこと、学位のための日本語試験にも不十分でしかないからである。第三に、授業はなるべく平日に行うべきであろうと思われる。週末では教師の指導が行き届かず、学習上の効果が期待できない。第四に、日本語を専門とする教師が配置される、あるいは専任教師が日本語の研修を受けられるようにすべきである。教員が授業に安心して集中できるようにするためである。総じて、日本語課程の内容設定と構造的配置を調整し、実践的な授業を強化し、それによって学生の創造力と実践力を育成する必要がある。

教師の教育法の向上も対策の必要な問題である。調和のとれた教師と生徒の関係を築くことは、学生の学習と教師の指導を強く促進する。

これには第一に、教育における公平性の問題、すなわち学生を公平に見ることにより自信をつけさせる取り組みが必要である。大学入学統一試験で入学した彝族学生は、一般の学生より百点以上低い点数で入学するため、優遇された結果であるというレッテルを貼られ、その学習意欲に大きな影響を与えることになる。学生は、「自分はもともと成績が悪い」という自己認識を持ち、努力せず成績が悪くても論理的に正当化できる理由とする。学生が正常な学習軌道に乗るには、教育によって考え方を転換させなければならない。

第二に具体的な教授法の問題がある。彝語文化学院の学生の母語は彝語であるのに、日本語を教える場合、漢民族の学生を教えるのと同じ指導方法が採用されることが多い。中国語と日本語の対照研究に基づく研究が多いからであるが(50)、彝語と日本語の対照に基づく教授法の研究は非常に少ない。筆者は彝族の学生に対して彝語の文法との対照を組み込んで日本語を教えることを試みており、その経験から言えば、単に日本語の文法を説明するよりもいい結果をもたらしている。指導の過程で、日本語の発音や語彙や文法だけを説明してもなかなか理解されないが、彝語と比較することにより、学生の理解度は高くなる。

具体的な例を挙げると、日本語の５つの母音はすべて彝文字表記でき、また子音もほとんど彝

(50)　たとえば日本では日中言語研究と日本語教育研究会による会誌『日中言語研究と日本語教育』が 2018 年度までで 11 号、中国語話者のための日本語教育研究会による会誌『中国語話者のための日本語教育研究』も 2021 年度までで 11 号が出版されている。また中国では 日語偏誤与日語教学学会による会誌『日語偏誤与日語教学研究』がやはり 2018 年度までで３号が出されているなど。

文字で表記できるため、彝族の学生が日本語の母音や子音を学習する際には、それを利用することで習得を容易にすることができる[51]。また基本語順が日本語と彝語ではともに主語 - 目的語 - 述語の構造で共通しており、彝語も日本語の「わたし―ごはん―たべる」の語順となる。これは事態を叙述するための言語を組み立てる際に、その発想の段階で有利であろうと思われる[52]。また使役性の動詞の対応といった点において動詞の特性も日本語と彝語に共通したところが認められる[53]。たとえば「服を着る」という意味の動詞は、自分が着る場合と他人が着せる場合とで区別される。彝語では、自分が着ることを「ggat」、他人が着せることを「gat」と区別するが、日本語でも「着る」と「着せる」で区別する。

最後に学習方法についての対策である。

教え方は常に最適化され、現在では学生が積極的に学習に参加することが求められる。中国語で言えば「要我学（私に学ばせたい）」から「我要学（私が学びたい）」への変化である。現在のところ彝族学生のコミュニケーションはほとんど彝語であり、日本人学生との日本語によるコミュニケーションはない。今後は、教師が直接に読み方を教えるためにテキストを読み、学生がそれに追随するような方法はできるだけ少なくし、以下のような視点に基づいた教育の研究が必要だと考える。

第一は、学生の自律性である。外国語学習、特に英語学習における学習者の自律性（autonomy）の問題は、中国でも 21 世紀の初めころから盛んに議論された[54]。しかし日本語学習に関しては、中国ではまだ少数の指摘に止まる[55]。日本での日本語教育の実践を参観し、日本語教師と意見交換をするなかで、学習者の自律性の重要性を感じた。教師による一方向的な教育内容の授与ではない方法を探る必要があると考える。

第二は、教材の多様化である。どうしても冊子体の教材を中心としがちなこれまでの本学での教材と教育メディアを多様化する方途を探りたい。たとえば映画や動画などを利用することで，単なる語学の習得ではなく文化理解とつなげられる教育を考えてみたい[56]。

またこれら教授方法とは別に、学生が事前に授業内容の予習をしっかり行うように手配し、予習の良い学習方法と習慣を形成させることも重要かと考える。授業時間の 40 分間は、最初の 10 分間はテキストの内容に慣れるために、次の 10 分間は討論のために、次の 10 分間は学生が討論内容を要約して報告するために、最後の 10 分間は教師が討論の配置や形式および学生の内容習得についてコメントするために配置される。そうした時間配分を成立させるためには充分な予習

(51)　彝語の音声および音標文字である彝文字については福田（2011）および西田（1992）を参照されたい。
(52)　日本語と中国語の基本語順と習得に関わる問題としては、山本（2011）などを参照されたい。
(53)　使役性の動詞と日本語学習の問題をあつかったものとしては、岡田誠（2012）などがある。
(54)　初期のものとしては、肖飞（2002）や徐锦芬ほか（2004）などを参照のこと。比較的最近のものとしては李玮（2022）を参照のこと。
(55)　刘宁晖（2012）、徐雪婷（2017）、陈苗君（2019）など。
(56)　映画を利用した文化理解と日本語教育の問題については、最近のものとしては保坂（2020）などがある。

が必要となるからである。

6　結論

中国で大学を卒業するには、一般的には学位のための外国語に合格する必要がある。外国語であれば英語でも日本語でもドイツ語でも言語の別は構わない。このうち大学日本語 4 級は、日本語能力試験の N4 レベルに相当するが[57]、N4 には記述式の主観テストがないのに対し、大学日本語 4 級にはそれがある。大学日本語 4 級は、日本語の入門レベルに相当するに過ぎない。大学英語レベル 4 では、425 点の合格点は TOEFL の 50 点に相当する[58]。これが外国語の学位を取得して卒業するための基本的な条件である。したがってすべての学生にとって、学位のための外国語に合格することは重いプレッシャーとなる。

前述したように西昌学院彝族言語文化学院では、かつて外国語として英語を教えていたが、英語教育の成果が上がらず、毎年多くの学生が英語 4 級試験に合格できず、期限内に卒業することができなかった。そこで大学は、他での実践を参考にしながら、英語が苦手な学生にはその代わりに日本語を履修させ、国家試験の日本語 4 級を受けさせるようになった。

英語で成功しなかったからといって、必ずしも英語教育と彝語教育の間に関係がないわけではなく、経験や情報に限りがあるためにその理由は十分には説明できない。しかし、現在の日本語の合格率も満足できるものではないが、音韻、語順、動詞などの類似性を比較しながら日本語と彝語を教えることは、日本語教育の効果を高めることになるはずである。教育実践としては、これは効果を高めるための要素のひとつに過ぎず、万全の対策とは言えず、現時点では、これは予備的な観察・分析に過ぎないが、今後、日本語と彝語を組み合わせた教育実践を繰り返し観察・分析することで、両者の間に何らかの洞察やパターンを導き出すことができると考える。

参照文献

浅山佳郎（2018）「複言語教育としての彝語教育」.『マテシス・ウニウェルサリス』19(2)；7-20. 獨協大学国際教養学部.

阿蘇克的莫（2018）「涼山彝漢双語教育一類模式教学現状及対策研究」.『西昌学院学報・社会科学版』30(4)；119-124. 西昌学院学報（社会科学版）編輯部.

陈苗君（2019）「高职学生自主性学习调查研究—以日语专业学生为考察对象」.『课程教育研究』40；214. 内蒙古自治区北方文化研究院

独立行政法人大学評価・学位授与機構（2013）『中国の高等教育における質保証システムの概要』（https://www.niad.ac.jp/consolidation/international/info/china.html2022 年 9 月 27 日　最終確認）

福田和展（2011）『涼山彝族の言語と文字』. 三重大学出版会

保坂敏子（2020）「映画を介したことばと文化の学び： 学習者の『文化翻訳』に注目して」.『ことばと文

(57)　日本語能力試験（JLPT）の N4 については、https://www.jlpt.jp/about/levelsummary.html　を参照されたい（2022 年 9 月 27 日最終確認）。

(58)　西昌学院の英語教育担当教員の教示による。

字』13；62-70. 日本のローマ字社.

李玮（2022）「大学英语教学中的“学习者自主”问题研究」.『现代英语』2022（04）：29-32. 中国现代国际关系研究院

Liu Chenyu・Hongdi Ding・Hong Wang・Lijuan Yu・Mingzhong Yang.（2014）A Multi-case Investigation into Trilingualism and Trilingual Education in Liangshan Yi Autonomous Prefecture. In Feng、A. & Adamson、B.（eds.）*Trilingualism in Education in China*. Springer；141-174.

刘宁晖（2012）「日语教育新视角—论学习者自主学习」.『管理学家』20；230. 航空工业信息中心管理学家编辑部

羅辺木果（1999）「四川彝族一類模式教学述評」.『中国民族教育』1999（1）；52-55. 中国教育新聞網

西田龍夫（1992）「ロロ語」『言語学大辞典　第 4 巻』三省堂；1099-1113

岡田誠（2012）「『受身動詞』と『使役動詞』の定義について」.『国学院大学日本語教育研究』3；74-84. 国学院大学日本語教育研究会編集委員会.

Qiu-Fuyuan、Lama（2013）*Subgrouping of Nisoic*（*Yi*）*Language*s. Lambert

田畑久夫・金丸良子・新免康・松岡正子・索文清・C. ダニエル（2001）『中国少数民族事典』東京堂出版；138-143

佐野賢治（1996）「はじめに—調査経過—」.『比較民俗研究』13. 比較民俗研究会.（ほかに同号の特集「麗江納西族・美姑彝族民俗調査報告Ⅱ」に収める諸論文）

佐野賢治（1997）「はじめに・平成 8 年度調査経過」.『比較民俗研究』15. 比較民俗研究会.（ほかに同号の特集「中国西南民俗調査中間報告Ⅲ」に収める諸論文）

山本範子・金昌吉（2011）「言語転移と語順偏誤、北星学園大学アンケート調査より」.『北星学園大学文学部北星論集』48(2)；75-86. 北星学園大学.

吉川龍生・山下 一夫（2014）「中国四川省涼山における彝族の複言語教育」.『慶應義塾外国語教育研究』11；117-135. 慶應義塾大学外国語教育研究センター.

肖飞（2002）「高职学生自主性学习调查研究—以日语专业学生为考察对象 -」.『外语界』89；8-14. 上海外国语大学

徐锦芬・彭仁忠・吴卫平（2004）「非英语专业大学生自主性英语学习能力调查与分析」.『外语教学与研究』36-1；64-68. 北京外国语大学外语教学与研究編輯部

徐雪婷（2017）「创新语境下大学生日语自主学习策略研究」.『科学与财富』36；82-83. 四川省科教兴川促进会科学与财富编辑部